

2009 年度 分野別事例・概況シート

1. 分野	小学校における環境教育とネイチャーゲーム		
2. 氏名	田川 裕則		
n3. 事例報告	3-1 事例の概要 昨年・一昨年と同様に、さいたま市の小中高一貫教育の私立小学校2年生を対象として、5月から11月の総合の時間4回を使ってネイチャーゲームを行い、仲間作りから自然への気づきを学ぶことを目的とする。		
	3-2 事例の内容 ●ねらい ① ネイチャーゲームにより自然に親しむ ② 2年生になったばかりで仲間作りを図る ③ チームワークを育てる ● 対象 小学校2年生 95名 (A~Jの10班×10名) 4クラス ● 実施アクティビティ		
	1 回目	2 回目	3 回目
	6月2日	6月23日	10月20日
	4人	5人	4人
	小学校グラウンド	小学校グラウンド	中学校グラウンド
	コウモリとガ ノーズ 動物質問室	動物ヒントリレー カモフラージュ カウボーイゲーム	じゃんけんドングリ ごちそうはどこだ リスときつね
			はっぱジャンケン フィールドビンゴ (A4版) 音いくつ サウンドマップ
(小学校グラウンド：3年前に出来たばかりで、狭く木がほとんどない) (中折が学校グラウンド：広く自然がある)			
●参加者の反応 フィールドビンゴのように自然のものを探すアクティビティは好評でした。普段は入れない中学校のグラウンドでネイチャーゲームを行なうことが出来たので新しい発見がありました。 カウボーイゲームなどの活動的なアクティビティには反応が良いが、サウンドマップのような活動にはグループによってはのりが良くないこともありました。子どもたちをどのようにしてひきつけることができるかが重要なポイントです。			

3-3 分野におけるネイチャーゲーム実践のポイントと留意点

総合的な学習の時間を利用して、2年生を対象として5月から11月にかけて各回ごとに「あそび」のテーマを決めてネイチャーゲームを4回実施し、仲間作りから自然に対する観察力の向上を図りました。

担当の先生たちは、以前からネイチャーゲームを本で調べたりして、授業に取り入れて実施してきていましたが、今回は4回に分けて段階的にネイチャーゲームを行なうことで、小学校専用の自然が少ない狭いグラウンドでもネイチャーゲームが出来ることを目的としました。

3-4 活動の評価

最初子どもたちはネイチャーゲームって何？という感じで、外部から来たゲストティーチャーに戸惑っていました。

当初は虫に触ることが出来なかった子どもが2回目・3回目とネイチャーゲームを行なうころには、ネイチャーゲームのことが段々とわかってきて楽しく自然に触れることが出来るようになってきました。

『コウモリとガ』によって、食う食われるの関係を理解し食物連鎖を体験して、生態系ピラミッドの話をする事が出来ました。

小学校の狭い専用グラウンドでも十分に自然と親しむことが出来て、先生たちも今後の授業につながると評価していただきました。

さらには、今後も継続して授業の中に取り入れていただけることになりました。

3-5 今後の課題

ネイチャーゲームを実施した前後の変化を評価できるようにしたい。

本年度で3年連続の依頼事業で年間4回実施してきました。

指導スタッフは平日対応できるベテランを含めて、インストラクターが3名入って色々と協議しながら活動を行ってきました。

昨年度は最後にカメラゲーム（絵は描かない）を行い、本年度は最後にサウンドマップを行いました。

3年続けて2年生を対象としてきて、指導する側のノウハウや経験をまとめていくことが必要だと思います。

また、せっかくの指導のチャンスですので次年度も依頼がありましたら指導経験が少ないメンバーに入ってもらって指導体験をしていただき、今後は指導者の底上げが出来ればと考えています。

3-6 写真、プログラムシート

4. 分野の概況	4-1 分野の今日的な概要 学校の教育の重点としている「好奇心」「意欲」を育てる。「コミュニケーション能力」を伸ばす。自然を教材として「感じる」「発見する」ことを大切にしながら、幅広い情報収集力、実践的な思考の育成。
	4-2 分野を理解するキーワードとその説明 ネイチャーゲームを行なうことで、「自然や環境への理解」「五感によるさまざまな自然体験」「自然の美しさや面白さの発見」「他者への思いやりや生命を大切にする心が育ち」「感受性が高まり」が図られます。
	4-3 その分野を学ぶための参考資料 「小学校学習指導要領」「ネイチャーゲーム」「小学校の授業に生きるネイチャーゲーム」
	4-4 その分野に関係する主要団体